

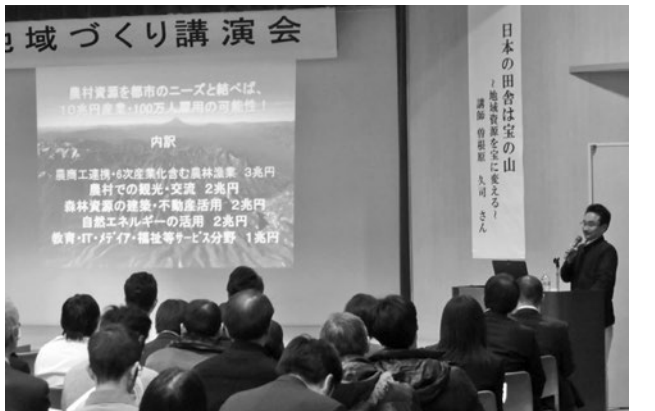
総務課

地域資源の活用期待膨らむ

地域づくり講演会

「日本の田舎は宝の山」地域資源を宝に変える」

2月3日、内閣府地域活性化伝道師に選出された、NPO法人えがおつなげて代表理事の曾根原久司さんによる講演会を庄原市ふれあいセンターで開催し、約150人が会場に訪れました。曾根原さんは、都市部の大手企業の社員研修の一環として、社員が耕作放棄地を開墾し、美しい棚田として再生させる取り組みを行っている事例や、その棚田で取れる米を原料に日本酒を販売していることなど、農村起業による



講演する曾根原さん

商工観光課

売り場改善へ専門家がアドバイス
物販拠点施設販売力強化事業

観光消費額の向上による地域活性化を図るため、庄原観光いちばん協議会逸品推進部会は12月～2月の3カ月、専門家を招いて物販拠点施設の販売力の強化に取り組みました。今回指導したのは、九州各地の特産品を集めた直売所「九州のムラ市場」の店長を務めた経験のある中野幸博さん。道の駅など市内物販拠点施設5カ所を巡り、現地調査や関係者の聞き取りを行いながら、商品陳列、POP（商



中野さんのアドバイスで売り場の改善を図る（道の駅たかの）

商工観光課

観光客ニーズに合わせた
商品づくりを学ぶ
庄原市観光地づくり講座

観光商品づくりのノウハウを学ぶ「庄原市観光地づくり講座」を1月14日、2月4日、5日の3日間、庄原市ふれあいセンターで開催し、観光関係者など約25人が参加しました。これは、昨年度実施した庄原市観光実態調査などの結果をマーケティングデータとして活用し、観光客のニーズにあわせた庄原市の観光ツアーを企画開発するものです。参加者は、観光消費額を引き上げるためのサービスや、魅力的な商品タイトルつけ方など、商品づくりのコツを学びながら、グループワークを通して、有望な観光資源とターゲットを検討し、魅力ある周遊ルートを開発しま



グループワークで周遊ルートを開発

スキーの技術向上と楽しさを知ることを目指し、恒例となったレベルアップスポーツ教室を1月25日、ひろしま県民の森スキー場で開催しました。当日は、小学1年生から大人まで142人が参加。それぞれのレベルにあったクラス（初心者・初級・中級・上級・競技）に分かれ、全日本スキー連盟公認指導者を中心とした講師から、スキーの基本・競技技術などを学びました。参加者は技術習得に向けて真剣に取り組みながらも、参加者同士の交流を深めていました。

生涯学習課

スキーの基本・競技技術を学ぶ
レベルアップスポーツ教室



講師の指導を受け板を滑らせる参加者

自治定住課

人を知り、つながることで
活動の充実を考える
地域づくり実践研修・報告会

市と自治振興区連合会は2月15日、地域に住む人を知り、つながることで活動を充実するための研修会を庄原グランドホテルで開催し、64人が参加しました。最初に、全国各地の地域づくりや市民活動を支援している、講師の川北秀人さん（人と組織と地球のための国際



講演する川北さん

研究所代表）が講演し、活動の充実には地域や人を知ることが重要であることを指摘。地域での参加者が増加する工夫をして成功した他の事例を上げながら、国勢調査の資料をもとに「庄原市では人口が増加した年齢層もある。地域の状況を知り、工夫することで活動は充実する」と解説しました。また、本年度は自治振興区や地域おこし協力隊などの活動報告も実施し、市内の活動を知り今後のあり方を考える機会となりました。参加者からは「うちでも取り組んでみたい」「報告にあった計画が実施されるとおもしろそうだ」といった声が聞かれました。

広島市大雨災害義援金受付終了の報告とお礼

昨年8月19日からの大雨などにより、広島市で甚大な被害が発生し、半年が経過した現在も被災地では復興に向けた取り組みが進められています。庄原市では昨年8月22日から、この災害に対する義援金の受け付けを行ってきましたが、日本赤十字社の義援金募集の終了にあわせ、本市でも昨年12月26日をもって義援金の募集を終了しました。市民の皆さま多数のご支援ご協力をいただき、ありがとうございました。被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

字社の義援金募集の終了にあわせ、本市でも昨年12月26日をもって義援金の募集を終了しました。市民の皆さま多数のご支援ご協力をいただき、ありがとうございました。被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

お寄せいただいた義援金総額 515件 14,117,489円 ※義援金は日本赤十字社の義援金窓口へ振り込みました。

●社会福祉課 障害者福祉係 ☎0824-73-1210●

商工観光課

民泊受入のノウハウを学習
民泊体験先進地視察研修開催

庄原市さとやま体験交流協議会は1月20日、24日の2回にわたり、民泊受入先進地の事例を学習する視察研修を開催し、延べ71人が参加しました。参加者は、受入先進地である安芸太田町・北広島町・江田島市を訪れ、受け入れを行っている家庭の体験談やノウハウ、民泊を元氣な地域づくりに役立っている事例を学びました。江田島市の清水昭彦さんは「受け入れ家庭同士のつながりができることや、子どもたちとの交流が一番のやりがい。難しいと思うかもしれないが、やってみると意外と簡単なので気軽に始めてみてください」と話していました。



受入家庭の方へ質問する参加者（江田島市視察）

民泊受入家庭募集中！
修学旅行生などの民泊を受け入れていただける家庭を募集しています。興味のある方・話を聞いてみたい方は、庄原市さとやま体験交流協議会事務局（庄原市観光協会）☎0824-75-0173 へぜひご連絡を！

研修に参加した八谷るりこさん（川北町）は「民泊のメリットが大きいので、まずやってみよう。この事業は行政と地域が協力して一緒に進めていく必要があると感じた」と感想を話していました。同協議会では、受け入れ体制づくりに向け、今後も視察研修や勉強会、民泊を受け入れるモニターツアーの開催など、さまざまな事業を予定しています。

情報政策課

県広報コンクールで最優秀賞
1枚写真の部で高評価

市が発行する市政情報誌「広報しょうばら」10月号の表紙が、平成26年度広島県広報コンクール1枚写真の部で最優秀に選ばれました。写真は、1970年代に西城地域などで目撃されたという謎の類人猿「ヒバゴン」の着ぐるみが、熊野神社（西城町）の参道の杉の大木からひょっこり顔をのぞかせているものです。審査委員からは「何だろう？と読者の眼を引く表現。ヒバゴンへの関心を引く表現になっている」「薄暗い境内



広報しょうばら 10月号の表紙

でヒバゴンがきれいに写っている」「森の中の空間の広がりや空気が良く伝わる」と高く評価されました。

商工観光課

比婆道後帝釈国定公園の魅力再発見！
「山たびセミナー」を開催

比婆道後帝釈国定公園連携事業実行委員会（※）は、連携事業の一環として、2月6日に庄原市ふれあいセンターで「山たびセミナー」を開催し、関係者など約70人が参加しました。このセミナーは、比婆道後帝釈国定公園の魅力向上を図ることを目的に開催し、事例発表と講演会を行いました。事例発表では、休暇村吾妻山ロッジの岩脇純営業課長と、比婆山伝説ガイドツイハラの会の伊達泰輔会長が、本

定公園エリアの魅力向上へ向けた取り組みについて発表。講演会では「健康」「山歩き」「旅」のプロとして名高い清水正弘さんが、比婆道後帝釈国定公園の恵まれた伝統的風土がもたらす健康観や、ヘルスツーリズムを生かした地域活性化の考え方を、自身の経験を交えながらわかりやすく講演しました。参加者からは、「具体的な取り組み、心がけが伝わり参考になった」、「本国定公園には、恵まれた資源がたくさんあることを改めて実感した」などの声が寄せられました。



講演する清水さん

（※）比婆道後帝釈国定公園の知名度アップや来訪者の増加を目的に、関係する4市町（庄原市、神石高原町、島根県出雲町、鳥取県日南町）で構成される実行委員会。

生涯学習課

期待を背に全国での活躍を誓う
全国大会等出場者壮行式

文化・スポーツ部門で全国大会などへ出場する選手の壮行式が2月2日、市役所本庁舎で行われ、出場者をはじめ関係者や家族などが出席しました。式では、木山耕三市長と赤木忠徳市議会副議長が激励のあいさつを行い、出場者に祝金と花束が贈られました。出場者を代表して、田邊謙介さんが決意表明を述べ、大会での活躍を誓いました。出場者は次のとおりです。

●出場者（順不同・敬称略）

- 田邊 謙介（東城中3年）
国民体育大会冬季大会スキー競技会 少年男子の部 ジャイアントスラローム（2月20日～23日）群馬県
全国中学校体育大会・全国中学校スキー大会 ジャイアントスラローム、スラローム（2月5日～8日）青森県
- 香川 雪乃（高野中3年）
国民体育大会冬季大会スキー競技会 少年女子の部 ジャイアントスラローム（2月20日～23日）群馬県
全国中学校体育大会・全国中学校スキー大会 ジャイアントスラローム（2月5日～8日）青森県
- 紅 翔希（比和中1年）
全国中学校体育大会・全国中学校スキー大会 ジャイアントスラローム、スラローム（2月5日～8日）青森県
- 奥田 凜（口南小6年）
JOCジュニアオリンピックカップ K1（小学5、6年生） スーパージャイアントスラローム、スラローム（3月26日～30日）岐阜県
- 熊本 心優（比和小5年）
JOCジュニアオリンピックカップ K1（小学5、6年生） スーパージャイアントスラローム、スラローム（3月26日～30日）岐阜県



出席者で記念撮影

農業振興課

県内有数の菊生産地へと導く
高柴組合長が農林水産功労者表彰

東城菊組合の組合長高柴順紀さんが2月3日、広島県庁で農林水産功労者として県知事表彰を受賞しました。



右：表彰状を手にする高柴さん
下：集出荷貯蔵施設での選花の様子



東城菊組合は昭和61年に東城町菊生産組合として発足し、栽培技術の向上、共販体制の確立、選花機の導入などにより、品質の良い菊生産と販売を進めてきました。こうした功績が認められ平成5年には、組合として広島県朝日農業賞を受賞。その後も、海外視察や電照栽培に取り組むなど技術向上に努めてきました。平成21年には市の農業振興補助金を活用し、JA庄原の菊集出荷貯蔵施設が完成。菊の生産体制の充実が図られ

たことで、県内でも有数の菊産地として現在に至っています。高柴さんのこの度の表彰は、その中心の組合長として長年、組織をけん引してきた功績が認められたものです。

高柴さんは「菊生産を続けてこられたのは私一人の力ではありません。これまで組合員のみならず一緒に頑張ってきた成果です。今後も後継者の育成を図りながら菊の産地としてより良いものを生産していきたい」と話していました。市は引き続き、関係者とともに農業振興・菊産地の維持拡大に努めていきます。